

羽村市史編さんだより

平成31年1月

第16号

伸びゆくはむら

特集

土器から縄文時代を見る 2

- 
- 1 News
 - 3 部会の手帖
 - 5 市史編さんの足跡
 - 5 コラム「ちっとなべえ」



N

e

w

s

第11回羽村市史編さん委員会を開催

11月22日(木)に第11回羽村市史編さん委員会を開催しました。会議では、各部会から進捗状況の報告がされ、作業が順調に進んでいることを確認しました。今年度刊行する予定の『羽村市史 資料編 近世』、『羽村市史 資料編 自然』について、原稿がまとめられ、印刷業者に入稿されたことを報告しました。また、来年度刊行する資料編の内容についても確認をしました。



▲第11回市史編さん委員会の様子

第4回 羽村市史関連講座を開催しました！



▲第4回市史関連講座の様子

12月1日(土)、生涯学習センターゆとろぎで、「羽村市域の江戸時代を見直す」と題し、第4回羽村市史関連講座を開催しました。『羽村市史 資料編 近世』刊行に向けて調査した古文書や絵図などの史料をもとに、江戸時代の頃の羽村の領主による支配体制や災害の影響、玉川上水の管理の様子を、羽村市史編さん第2部会長の白井哲哉氏にお話しいただきました。

調査の過程で新たに発見された史料の解説もあり、参加者は、熱心に耳を傾けていました。

また、講座の参加者を対象としたアンケートを実施し、そのなかで本誌「伸びゆくはむら」についてもお聞きしました。その結果が左です。

アンケートに回答していただいた方のうち「伸びゆくはむら」を知っていると回答した方は24人で、そのうち13人が「読みやすい」と回答しました。

これからも羽村市史編さん事業に関する様々な情報を読みやすく工夫して、市民のみなさんへお届けします。

また、ご要望があった「伸びゆくはむら」のバックナンバーの閲覧については、5ページをご覧ください。

「伸びゆくはむら」に関する アンケート結果

【冊子について】

知っている 24人
知らない 8人
未回答 3人

【読みやすさ】

読みやすい 13人
ふつう 11人
読みにくい 0人

※「知っている」と回答した
方のみ回答

【ご要望】

・バックナンバーがどこで読めるか知りたい

表紙の写真

山根坂上遺跡の発掘調査現場

写真は、平成2年に行われた山根坂上遺跡の発掘現場です。

この遺跡からは、縄文時代中期(約5,400年から約4,500年前)の60軒を超える住居跡や、大きな石を半円形に並べた遺構などが発見され、縄文土器や石器などの道具も多数見つかったことから、長期間にわたり、人々の生活が営まれた集落であったと考えられています。



特集 土器から縄文時代をみる

『伸びゆくはむら』第10号の特集で「はむらの縄文時代」についてとりあげました。縄文時代を概観し、羽村市にある4つの集落遺跡がいずれも縄文中期の遺跡であることを紹介しました。今回は土器から縄文時代をみていきます。

●時代の目印となる土器

古文書のように文字に残された記録は時代を判別できることがあります。文字記録が出現する以前の縄文時代の年代を探るには、土の中に眠る遺跡の情報が欠かせません。

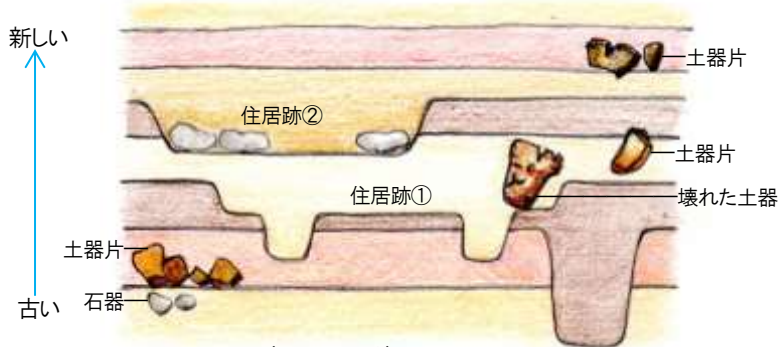
地面は、下の方から順に新しい時代へと少しずつ土が長い年月をかけて堆積してできたものです。



▲地中の堆積（模式図）

発掘調査では、この土の層を上から慎重に掘り下げながら時期を判別し、進めていきます。

土の層のみではなく、それぞれの土の層にあった遺物から得られる情報も、遺跡がいつのものかを知るためには必要です。さらに、出土した遺物を科学的な測定方法で調べることもあります。土器についての煤や焦げの炭素を分析して年代を測る方法（放射性炭素年代測定法）などです。縄文時代において、土器は時期を探る手がかり（目印）になる重要な遺物です。

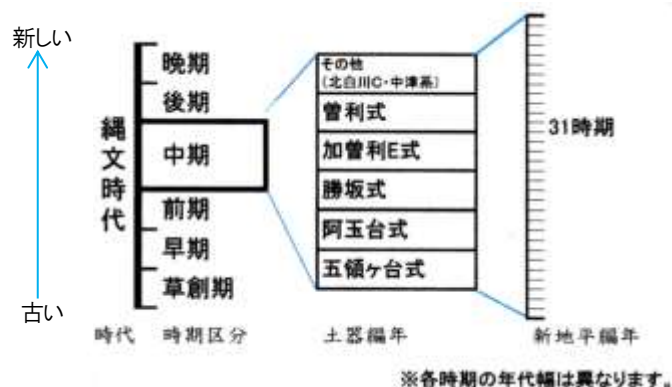


▲土の層の断面（イメージ）

住居の重なりや土器片の出土位置、土器の特徴を調査していきます。

●土器の特徴と土器の編年

縄文土器には、縄目、貝殻、竹管でつけられたり、粘土の紐を貼りつけたりした様々な文様があります。器の形も生活様式に合わせて変化すると考えられ、地域ごと、時期ごとに特徴が現れやすいと考えられています。その特徴をもつまとまりごとに名前がついています（型式）。例えば、羽村市域でよく出土する「加曽利E式土器」は、千葉県千葉市にある加曽利貝塚のE地点から出土した土器の特徴を基準としたまとまりに名づけられた型式名です。その後、研究が積み重ねられたことにより、このまとまりはさらに細分化しています。日本各地で地域ごとのまとまりが時代順に並べられ、土器の年表が作られてきました。これが土器編年です。



▲時期区分と関東地方の土器編年

また、多摩地域では、上図のように約1,000年間の縄文時代中期を31もの時期に分けて考える「新地平編年」が構築されています。これにより、縄文時代のより細かな一時期を見ることができ、短期間の集落の姿や人びとの活動を想像することができるようになってきました。

現在、刊行に向けて動いている『羽村市史 資料編 考古』でも、「新地平編年」を用いた分析が加わります。土器の詳細な出土状況を分析して、土器の小さな時期の違いを導き出す作業を進めています。また、平成30年の春から夏にかけて、羽ヶ田上遺跡の第7次調査、第8次調査の発掘調査報告書が発行され、縄文時代の新しい成果も得られています。市史編さん室では、これらの新しい成果も踏まえ、編集作業を進めています。

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。
※10～12月の活動をお知らせします。



用語の解説

むらやまそうどう てんめいいき
* 村山騒動（天明一揆）

…市内では（天明一揆）として知られているが、一般的には騒動の起きた地域を指す「村山騒動」といわれている。

どうせい
* 動静…人やものの動きのこと。



第1部会 ～原始・古代・中世～

縄文班は、出土遺物の分析や遺構・遺物図版のデータ化を継続して行っています。来年度刊行予定の資料編の執筆を進めながら、これらの素材をどう組み合わせていくか、部会内で検討を進めています。

中世班は、資料編に掲載する阿蘇神社出土の中世瓦調査を進めるとともに、棟札や板碑などの補足調査を行いました。



▲「阿蘇神社出土の中世瓦」実測の様子



第2部会 ～近世～

資料編刊行に向けて、原稿の執筆・校正作業を進めるとともに、市内外において最終的な確認調査を行っています。

市内では、新たに阿蘇神社から史料が確認され、近世の羽村を知ることのできる重要なものであることから、内容の把握と資料編への反映のための作業を進めました。

市外では、天明4年(1784)に起こった村山騒動（天明一揆）に関する補足調査を行い、村山騒動における羽村の動静などについて確認を行いました。



▲部会打合せの様子



第3部会 ～近代・現代～

羽村市役所に保管されている公文書や、過去の新聞記事の調査に引き続き取り組み、資料編に掲載・解説を行う資料の目録を作成しています。

あわせて、資料を掲載するための文字表記や、記載する情報の種類などの凡例について、事務局を交えた部会の打ち合わせを行いました。



▲目録作成作業の様子

第4部会 ～自然～

調査も一段落し、第4部会は資料編の編集作業の山場に入りました。

原稿の執筆や写真などの素材集め、データ整理など、これまでの成果を余すところなく表現できるよう尽力しました。

読みやすくわかりやすい資料編を目指し、部会内ではもちろん、事務局とも様々な議論を交わしながら現在も編集作業の真っ最中です。完成まで全部会員で協力しあい、精一杯取り組んでいます。



▲資料編原稿打合せの様子



第5部会 ～民俗～

七五三の鳥の子餅を調査撮影させていただいたほか、年中行事や衣食住などの聞き取り調査も継続して行っています。また、聞き取り調査が難しい分野については、郷土博物館の資料を調査しながら、どのように資料編を構成していくかを検討しています。

また、郷土博物館に移築復元されている旧下田家住宅（国指定重要有形民俗文化財）の茅葺屋根の葺き替え作業も調査しました。



▲旧下田家住宅茅葺屋根の葺き替えの様子

市史編さんの足あと



※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1 部会

月	日	できごと
10月	1日(月)	③ 庁内保管資料調査 ※以後、定期的に実施。
	10日(水)	② 市外史料調査(青梅市)
	16日(火)	第14回市史編さん本部会議
	21日(日)	⑤ 市内行事調査
	22日(月)	② 庁内保管資料調査
	25日(木)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
11月	5日(月)	① 市内資料調査(阿蘇神社)
	8日(木)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	10日(土)	⑤ 市内行事調査
	12日(月)	② 資料編原稿入稿 ④ 資料編原稿入稿
	15日(木)	⑤ 市内資料調査(郷土博物館)
	22日(木)	第11回市史編さん委員会
	29日(木)	② 市内資料調査(郷土博物館) ⑤ 市内資料調査(郷土博物館)
12月	1日(土)	第4回市史関連講座
	10日(月)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)

月	日	できごと
12月	11日(火)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	16日(日)	⑤ 市内行事調査
	19日(水)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	20日(木)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	25日(火)	① 市内資料調査
	26日(水)	① 市内資料調査
	28日(金)	⑤ 市内行事調査(神明神社)
	30日(日)	⑤ 市内行事調査(松本神社)
	31日(月)	⑤ 市内行事調査(阿蘇神社)

「伸びゆくはむら」バックナンバーについて
以下の場所・方法でご覧いただけます。

- 市史編さん室(市役所西庁舎 3 階)
- 羽村市図書館(3 階地域資料コーナー)
- 羽村市公式ウェブサイト

コラム

ちっとなべえ

第16回 「お返しのカタチ」

「ツルは千年 カメは万年」

ツルカメと言えは縁起物の一つです。

羽村ではうどん食の文化があり、日常だけでなく、結婚など祝儀の席にも「ツルツル カメカメ」で縁起の良い物としてうどんが振る舞われました。

そんなめでたいツルカメの“ツル”にかけて、今回は“鶴の子餅”と“鳥の子餅”のお話。

羽村では、すあま(上新粉)で作った小さい方を鶴の子餅、もち米で作った大きい方を鳥の子餅と呼びます。

鳥の子餅は、七五三の内祝いとして贈られます。昔にくらべて数は少なくなりましたが、今でも11月になると市内の和菓子屋に注文が入るそうです。



▲鶴の子餅



▲鳥の子餅

一般的に、ツルの卵のような形をしているから鶴の子餅、というのが名前の由来だそうですが、鶴の子餅がツルの卵を模したものなら、鳥の子餅は…ダチョウの卵くらいの大きさがあります。

▲ツルの仲間の卵

ツルの卵はやや尖った細長い形をしています。細長い餅の形はツルの卵に見えなくもありませんが、コロんとくまっているヒナの姿にも見えます。

今はお返しのカタチもさまざまありますが、相手を想い品を選ぶ、そこに込められた感謝の気持ちはいつの時代も変わりません。



(S.N 記) ▲タンチョウの親子

※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで
5 「ちょっと、少しばかり」という意味です。